



## HEART to HEART

### tea time

### Information

### 3~4月このとりの外来の成績

### 編集後記

## HEART to HEART

### 『 諏訪マタニティーについて 』

〈Mさん〉

電話口で受精が確認出来ない時の先生の口調にこちらの方が逆に申し訳なかった



私たち夫婦は今年で結婚6年目を迎えました。今年初めに地元の病院から諏訪マタに転院し、体外受精で双子を妊娠することができました。私たちは、結婚当初より子供はすぐほしいと思っておりましたが、1年、2年たっても妊娠の兆候がありません。私自身生理が不順であったため「生理不順だから妊娠しにくいのかなあ・・・」と軽い感じで考えていました。そのうち3年目を迎えてしまい内心とても焦っていました。自分より後に結婚した友人から「子供ができたよ!」の報告が入ると、「おめでとう・・・」と言ってあげるものとても複雑な思いでいっぱいでした。

あまり悩んでいても仕方がないと思い、地元で不妊外来のある病院に通院してみることにしました。いくつかの検査をしていくにつれ「多胎性卵胞症候群」「右の卵管閉塞」と言う検査結果が出たのです。治療はタイミング療法を半年行い、次に人工授精を5回ほど行いましたが妊娠の反応は1回も出ませんでした。私は仕事をしておりますので、半年治療をしたら半年治療を休むといった具合で2年間治療を続けました。仕事を続けながらの不妊治療は、精神的にかなりつらかったです。この時は、全てのストレスが一気に降りかかってきたような感じでした。きっと気軽に相談できる人がいたらもう少し軽減できたのかもしれない。

治療を休み精神的にも少し落ちつきを取り戻した頃、母の職場で諏訪マタに通院し体外受精で双子を妊娠した方がいると言う話を聞きました。不妊治療(体外受精)についても詳しい説明があり、患者さんに対する対応も親切でとにかく安心できる所とのことでした。年が明け、転院すること体外受精にステップアップすることについて主人と話し合い、諏訪マタで治療することに決めたのです。

初めて病院を訪れた日は不安と緊張でいっぱいでしたが、体外受精を行いたい、できればすぐに始めたいことを吉川先生に伝える事ができました。診察の後通された相談室では今後の治療について流れ等を聞きました。しかし私の場合、体外受精の説明を受ける前に実際には治療を始める事になるので、いろいろが分からない中で進んでいくのでは不安だという事になり、早速その場に培養士さんと呼んで頂き体外受精の概要について説明を伺う事が出来ました。個人個人の状況に応じ、てきぱきと対応して下さった事にとっても驚き、こういう事が話しに聞いていた”諏訪マタの素晴らしさ”なんだと実感しました。

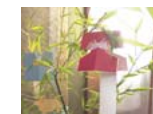
そしてとうとう1回目の体外受精。採卵はしたものの受精はしていませんでした。電話口で吉川先生が「今回受精していませんよ。」と大変申し訳なさそうにおっしゃったのでなんだかこちらも申し訳なくなってしまうました。でも次があるからと気

持ちを切り替え、2回目を開始。幸運なことにこの2回目の体外受精で妊娠反応が出ました。判定日当日、主人と二人で診察室に入り吉川先生から「妊娠反応でていますよ。おめでとうございます。」と言われ「本当ですか・・・?」としか言えなかった私。帰りの車で主人と「良かったね。頑張ったね。」とお互い喜びあいました。1週間後の診察で2つの卵が着床していることがわかり、画面に映し出される双子ちゃんを見てやっと「妊娠できたんだあ」と実感しました。まだ出産まで道のりは長いですが授かった命大切に育てて生きたいと思います。

吉川先生をはじめスタッフの皆さんには本当に感謝しています。どうもありがとうございました。私にとって諏訪マタは、他の病院とは違って何よりもほっとできる場所でした。この安心感が、今回の妊娠につながったような気がします。地元の病院で出産するので転院するのは、なんだかとても寂しいです。出産しましたら報告させていただきます。

〈Iさん〉

たった3年という期間での院内の変化に患者第一で事を実行していく病院の姿勢をピンピンと感じた



私は現在36歳、結婚7年目。諏訪マタへは3年前にタイミング療法で通院していたが、あまりすまない気持ちで通っていたせいもありやめてしまった。しかし、その後自然に妊娠することはなく再度通院を始めて8ヶ月、まだ妊娠には至っていない。しかし私はこうして諏訪マタに通えることを、本当にありがたうれしく思っている。

私は結婚前まで看護師として働いていたが、今度は自分が治療を受ける立場になってみて初めて分かった事がある。“患者さんはこんなことでも不安になるんだ、先生の一言でもこんな気持ちになるんだ”等々。今まで想像していた患者さんの側の気持ちというものが、自分の思っていたものと違う部分があった。そしていかに看護師としての自分のそれが、届かないものであったのかを知った。

諏訪マタには患者側が抱く不安の一つ一つを最小限にとどめたり、かつ解消してくれるようなシステムがあり、また、働いているスタッフの方々も、日々惜しめない努力と実行の中のように感じてる。3年前に通院していた頃と現在でもさまざまな点で変化があった。ポケベルが携帯に変わっていた。不妊治療の診察室が妊婦さん達とは別の建物に移動していた。そしてそこには治療についての相談の出来る相談室が出来ていて、倶楽部このとりのという新聞が発行されていた。たった3年という期間でここまで変わっていた事に、患者第一で事を実行していく病院としての姿勢を、ピンピンと感じるのは私ばかりではないと思う。

吉川先生は私達が自分の周期で治療に行くにも関わらず、早朝であれ、土日であれ、時間にいけば診て下さるし、説明会の場でも詳しく話を自分の想いもしっかり言われ、私達が選択していく材料を与えて下さる。いつ休んでおられるのかわからない中で、毎日を維持されている先生の姿を見ると、最初は話しづらかった私の気持ちもほぐれていき、この先生にまかせてみようという気持ちになっていった。そして治療に携わる看護師さん、培養士さん、カウンセラーさん、受付の方々も本当によくして下さい。心地が良い。



判定の日、ダメだったことを先生から聞く時、先生だけでなく看護師さんも申し訳なさそうな顔をされて後ろにたたれてた。忙しい中でも一人一人に気をつかって下さる心が、落ち込む気持ちを超えて傷つけることなく、"そっとくるんで"もらっている気がした。現場を知っている私だからこそう思うのだ。スタッフ全員がそれぞれの立場で患者を大事にしてくれる医療機関はなかなか無いという事。

私も主人も、ここなら心から信頼して治療を受けれると思った。初めてこの倶楽部こうのとりを手にした時切なくなっていて泣きながら読んだ。自分だけじゃないんだ、他人にはわからないと思っていた気持ちと全く同じ思いをしている人がこんなにいる。しかも私よりずっとずっと長い時間その中を通っている人も・・。あとは自分の願いに向かって続けていくしかない。諸々の想いは相談室で聞いてもらいながらこれからも諏訪マタにお世話になりたい。自分が行動を起こささえすれば、支えてくれる場所は変わらずあり、そしてこの私を、受け入れてくれるのだから。

## ＜Kさん＞

『この病院でホントにいいのかな?』  
それでもとにかく行ってみたい事にはわからない



私が、諏訪マタニティーの門を叩いたのは、今年の4月のことでした。前に通っていた所に治療技術の限界がありステップアップが可能な施設として紹介された中にここ諏訪マタニティーがありました。名前は知っているものの、どのような施設でどのようなことをするのか、先生はどんな方なのかさっぱりわからないので、まずインターネットを使い調べてみる事にしました。すると先生について『事務的な話し方で冷たい』『質問も思うようにできない』など、マイナスなイメージに取れるようなことが書かれていて、その時点ですでに紹介状を書いてもらってあったので『この病院でホントにいいのかな?』と少し不安になってしまいました。

それでもとにかく、行ってみたい事にはわからない!と、ネットに出ていた説明会に夫と共に参加する事にしました。そこでは治療についての具体的な内容や、患者が自分達で治療の方向性を決めていく方針と聞き、その判断に必要な情報提供をしっかりしてくれていました。先生がいかに患者に真剣に向き合ってくれているかが伝わってきたので、一端は『よしっ!』と思えたのですが、その表現があまりに淡々としていて事務的に感ずる所も正直あり『やっぱり、みんなが言っているような先生なのかな?』と半信半疑な気持ちで帰りました。それからしばらくは『ここで本当に大丈夫だろうか?』『うん、大丈夫!』『でも・・・』

自分達の願いを叶える為の技術のある病院である事は間違いない、休みもなく忙しく働いているといったあの言い方に、あまりいい気分はしなかったけれど、でもそれは誰の為?よく考えればあの先生は、一生懸命にやってくれてるって事じゃないの!?・・

自問自答の日々が払拭出来た日。それは初めての診察を受けに行った時でした。診察室で実際に私の目の前にいた先生は説明会の時とは違った温和な顔つきの人でした。『あれっ?何かこの前と違うな〜』と思いながらも、問診、検査、治療方法の説明と事は進み、そこで私は以前かかっていた病院で疑問に思っていた事があったのでそれについて質問を試みた所、きちん

と納得のいく説明をしてくれました。そして決め手になったのは、最後にかけてくれた"それではこの方法でがんばりましょう"という言葉。その言葉を耳にした時、『私が悩んで悩んで決めたことは、ムダじゃなかった!この先生なら、大丈夫!がんばれる!』と思いました。モヤモヤが晴れ晴れになって軽い気持ちになりました。

先日初めて入った相談室、初対面だったのに私自身も何をこんなに熱く語っているんだろうとおかしかったのですが、ここに書いたような話しをしたら、"今月の新聞のテーマにぴったり"と言われ、原稿を頼まれ早速書きました。

以上が私の諏訪マタデビューの一連です。まだ始まったばかりではありますが、自分で納得して巡り会った先生、看護師さん、相談室のカウンセラーさん、辛くても長い治療になろうとも、がんばれそうな気がします。そして、いい結果に終わった時、心のそこから『ありがとうございました』と言いたいです。

## ＜Oさん＞

自分に合った病院を探すのは  
本当に大変な事だと思った



私達は結婚してもうすぐ8年目。「子供が欲しいね」そう二人で話して不妊治療を始めたのは結婚して3年目の事でした。「〇〇病院の〇〇先生は不妊治療で有名だっけ」という一言で、近くの総合病院へ。大きい病院の有名な先生だしすぐ妊娠出来ると、まるで買い物にでも行くような軽い気分で考えていた私にバチが当たったのでしょうか。痛くて辛い検査が続き、その後先生の口から出たのは『これといった原因はありませんが人工授精を試みた方がいいでしょう』と冷たく事務的な言葉。いつか私にだって赤ちゃんを抱ける日がくるはず、そんな気持ちをよそに十数回と続けられた人工授精。ある日、私の診察している薄いカーテンの隣であろうことが"出産"が始まっちゃったんです。その時は何とも言えない気持ちがこみ上げてきて、涙が止まりませんでした。それから治療はストップ。長い冬眠期間に入りました。

もう妊娠は諦めていた私でしたが、主人が諏訪マタのHPを見て「これで最後と思ってステップアップして体外受精してみようヨ。説明会をやっているらしいから、聞いてみてからやるかやらないか決めればいいだし」それで諏訪マタを訪れる事になりました。「もう、嫌な思いだけはしたくないなあ、きっとこの病院だって私の気持ち分かってくれないに決まってる早く帰りたいなあ」今考えたら怒られそうな事を思いつく会場へ。忙しいスケジュールの中で、一生懸命に説明をしてくれた先生を見てるうちに私達二人の気持ちは一致していました。ここに頼るしかない!。実際に治療に通うようになり二回、三回と先生にお会いしてみて『今はこうゆう状態だから』ときちんと理解できるように説明して下さいます。

こんな私も、今年二月に初めての体外受精にチャレンジ。一回目で妊娠といううれしい結果が!でも数日後の診察では残念ながら心臓が止まってしまい流産という結果になってしまいました。今は気持ちを切り替えてもう一度チャレンジしてみようと思っています。だって心強いスタッフの皆さんがついているんだもん。こんな風に自分に合った病院を探すのは本当に大変な事です。リラックスを心がけて頑張ります。こうのとりがかわいいプレゼントを運んでくれるその日まで。



ちょっとお茶でもいかがですか?  
日頃皆さんの思っている事やつづき  
やきをのせていくコーナーです。

## ✿ Y・Tさん ✿

私は結婚3年目、不妊治療1年未満の31歳の者です。そろそろ子供が欲しいと思い仕事を辞め、幸いすぐに授かったものの流産になってしまいました。病院には腹痛と出血を3週間も訴えていましたが「大丈夫、このまま様子をみましょう」と言われ、夜になり腹痛が激痛に変わって連絡をしても「先生がいないから来て貰っても困るのよね」と心ない返答で、訴えをまともにとりあってももらえないままに流産という結果になってしまったのでした。その時担当の先生からは、「仕方なかったですね」と一言だけ。いつの間にか「大丈夫」が「仕方なかった」に変わっていました。しかし、またすぐに子供が欲しいと思っていた私は、経過も解かっているそのこの病院でタイミングをみてもらう為に通院を続けました。

妊娠の兆候がないまま4ヶ月が過ぎたある日、スタッフの人に「あら、今月もダメだったの」と言われ、自分はこの病院では何か邪魔者扱いされてるような気持ちになってしまいました。そして、あの流産はもしかしてこの病院だったから止められなかった?と疑心暗鬼になっていきそれを主人に言うと、"違う病院に変えた方がいいんじゃないか?"という話しになり、以前知り合いから教えてもらった諏訪マタへ行ってみようということここでこへお世話になることになりました。

正直最初は「何処の病院も同じじゃないか」という思いで来ました。しかし、先生の診察も丁寧で、診察の後通されたコウノトリ相談室ではこの病院の患者に対するシステムやスタッフの姿勢などを聞いてほっとし、今までの病院であった事や、流産に関しての辛さ等心の中でモヤモヤしていた色々な思いを聞いて頂きました。

通院が始まり最初にびっくりしたことは「一般不妊の説明会」に出た時です。今まで何の説明もなく、質問さえ許されないと思っていたような治療に関する疑問すべてを、解かり易く丁寧に説明して頂いた事に感動しました。

そして、実際に治療が始まり以前の病院での流産の処置が心配だったのですが、それも大丈夫ということでタイミング療法でいくことになりました。

しかし4ヶ月を過ぎるあたりから、私の中に焦りの気持ちが出始めたのです。自分でもどうしようもなくいらいらして、妊娠した芸能人のニュースも観たくない、オムツの宣伝なんてなんですか?と不安定な日々が。そんな私の様子を見て困った主人が、1回先生に体外受精の事を聞いてみようと思病に来院する事にしました。先生の前で今のありのままの気持ちをぶつけた所、ひとまず相談室へ行って話をしてみてもと言われ、再び相談室へ入ることになりました。

流産をしたら次の妊娠は永遠に来ないんじゃないか?31歳でタイミング治療で授かる可能性をいつまで待っていていいものか?一刻でも早く子供が欲しいけれど、そんな自分勝手な思いで体外受精に踏み切るのはいけないことなのか?私より色々な事があってがんばっている人がいるのに、私はまだ1年もがんばっていない?いや、どう思われてもいいからとにかく子供が欲しいんだetc.溜まりに溜まった不安な思い、言葉は次から次へと涙と共に溢れてきました。思いを吐き出し、そして受け止めて

もらって、いかに自分が自分の中で作りあげたジレンマに振り回されていたのかに気づかされました。不安や悩みを相談できる場所がこの治療にはどれだけ必要かという事を本当に実感できました。それももちろん、吉川先生の診察あつての事です。

本当にこの病院に出会えて良かった、このとり相談室のドアを開けて良かった、と思っています。お陰様で現在妊娠6ヶ月となりました。1人でも多くの方が晴れやかな気持ちで通院出来るように心から願っています。吉川先生はじめスタッフの皆様には感謝しています。ありがとうございました。

# information

## 相談室立ち上げからの思い出～高橋培養士転勤にて～

こんにちは、みなさん。相談室の「白い人」「白衣の人」と呼ばれてた培養士・高橋です。ご無沙汰してます。最近姿を見かけないなあ、とお思いの方もいるかもしれませんが、私、県外に引っ越してしまい諏訪マタを退職させて頂きました。立ち上げから培養室スタッフとして参加してきた相談室。思い出が沢山あります。立ち上げまでは仕事上、患者さんと向き合うことはほとんどなく、私が向き合うのはその分身の精子や卵子たち。喋る事に不慣れだったのが災いし、初めは患者さんからの切実な質問にわかりやすく回答できないことが多々あったと思います。あー、ここまで説明すれば、もっと納得してもらえたかなあと後で後悔・悔し涙。いつだったでしょう、説明の後、患者さんから「すっきりしました。ありがとうございました。」と笑顔をもらったこと。いえいえ、私のほうが「ありがとうございました」の気持ちでいっぱいでしたよ。患者さんのお陰で私は成長できた気がします。精子や卵子にもより愛着が湧きましたね。新しい土地でこれから頑張ります。皆さんのもともと早くこうのとりがやってきますように。

今までありがとうございました。 高橋佑香



## 3月～4月こうのとりの外来の成績

妊娠	49人	採卵 胚移植	241人 190人	
(IUIを含む)		妊娠	72人	

## 編集 後記

小平:車を買い換えようと試乗に行く度にこれもいい、あれもいいと迷っていてなかなか決まらないんですよ。

中島:なんとなく私はジャニーズ系が好きかもと思って主人に"ねえ、ジャニーズみたいな髪型にしてみたら?惚れなおすよ"と言ったら、すかさず"じゃあ自分はモー娘になってみ、あー、でもお前モー娘ってより天むすかつ"って。私おむすび?! なら海老天がい〜わ。

小林:私が諏訪マタに来た時から外来の棚の所にはメンソレータム軟膏がありました。今までメンタムなんてと思っていたのに使ってみたらびっくり。ガサガサの手がしっとりとしてこれまた持続力もあって愛用品です。

保科:真田町につつじのたくさん咲いている公園があつてその鮮やかさに気持ち晴れ晴れ。たまには花を見るのもいいもんですな。

渡辺:先日あった結婚式で、カップルに向けてのお祝いメッセージを一言と言われ、"洗濯物はパンパンしっかりたたいてから干しす様に"と書きました。どこがお祝いのコメントだ?って。